

# デジタル時代の労働市場を見据えて【概要】

デジタル時・世代のマッチングに係る研究会 報告書

## 変化

制度が追いつかない  
スピードで  
市場が変わる

- ◎ AI 普及とマッチングチャネルの分散化により、これまでの“仲介モデル”の事業規制と実態にズレ
- ◎ 求職者、求人企業、仲介事業者、プラットフォームなど、マッチング主体が多様化



## マッチングの姿

単一の最適解は  
存在しない。AI の個別  
最適化の可能性

- ◎ 求人・求職者ニーズが高度化し、内部活用・スキル・テンポラリーなど市場類型が多様化
- ◎ 求人・求職者ごと、市場ごとに求められるデータ・評価軸に差異。AI が複数軸を同時に扱うことで個別最適化を支える可能性

## 浮上するデータ課題

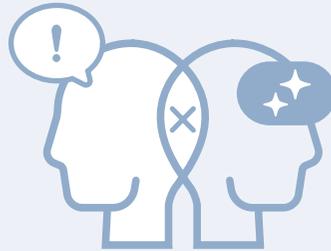
### 採用前後データの混在

- ◎ 選考データと採用後データが連結される実務の増加に伴い、ネガティブ情報の二次利用や訂正の困難化
- ◎ 採用までと採用後のデータを制度上分離し、採用後データは採用企業におけるデータガバナンスとして整理する必要

## 基軸の転換

“誰が仲介するか”  
から  
“何を守るか”へ

- ◎ 求職者保護とベストマッチング・労働力の最適配置を実現する市場機能を維持するため、市場横断で適用できる共通ルールが必要
- ◎ 労働市場の健全性、求職者保護、求人者の正当な利益保護を制度目的として、誰が仲介するかから何を守るかへ基軸を転換



## 共通規範

### 市場横断と AI 活用

- ◎ 市場横断の共通規範は、
  - ① 情報の正確性
  - ② 個人情報管理
  - ③ 差別防止
- ◎ AI 活用の共通規範は、説明責任と透明性を担保する“AI 利用ドック”

## 公的機関の進化

### グランドデザインと 相談・伴走を中核へ

- ◎ AI が高度化するほど、対面相談や弱者支援の価値が高まる
- ◎ 公的機関はマッチング制度のグランドデザインと相談・紛争解決・データ基盤整備へ役割をシフト

## まとめ

マッチングは  
社会の  
基盤インフラへ

- ◎ 共通規範、AI 監査、公的支援の再設計がデジタル時代の制度改革の中核

